

新医薬品が薬価収載されましたのでお知らせいたします。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
1	339	内用薬	ドブレレット錠20mg	20mg1錠	7,106.60	10錠 [10錠 (プリスターシート) ×1] /箱 15錠 [15錠 (プリスターシート) ×1] /箱	Swedish Orphan Biovitrum Japan	アバトロンボ バグマレイン 酸塩	待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善	通常、成人には、アバトロンボバグとして以下の用量を1日1回、5日間食後に経口投与する。 投与開始前の血小板数が40,000/μL以上50,000/μL未満：40mg 投与開始前の血小板数が40,000/μL未満：60mg	処方	R5.3.27	新有効成分
2	399	内用薬	オファコルカプセル50mg	50mg1カプセル	12,596.00	60カプセル [10カプセル (PTP) ×6]	レクメド	コール酸	先天性胆汁酸代謝異常症	通常、コール酸として1日量5~15mg/kgを1回又は数回に分けて食事中に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減すること。	処方	R5.3.27	新有効成分
3	116	注射薬	ヴィアレブ配合持続皮下注	10mL1瓶	13,277	7バイアル	アッヴィ	ホスレボドバ ノホスカルビ ドバ水和物	レボドバ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動 (wearing-off現象) の改善	本剤投与前の経口レボドバ量に応じて1時間あたりの注入速度を設定し、24時間持続皮下投与する。患者がオフ状態で本剤の投与を開始する場合には、持続投与開始前に負荷投与を行う。なお、必要に応じて持続投与中に追加投与を行うことができる。 通常、成人には、本剤を0.15~0.69mL/時間 (レボドバ換算量として約26~117mg/時間) で持続投与する。負荷投与を行う場合は本剤0.6~2.0mL (レボドバ換算量として約100~350mg) を投与する。追加投与は本剤を1回あたり0.1~0.3mL (レボドバ換算量として約17~51mg) で投与する。 本剤の投与量は症状により適宜増減するが、1日総投与量は16.67mL (レボドバ換算量として2840mg) を超えないこと。	処方	R4.12.23	新有効成分 新医療用配合剤
4	239	注射薬	エンタイビオ皮下注 108mgペン	108mg0.68mL1 キット	69,888	1キット	武田薬品工業	ヘドリスズマブ (遺伝子組換え)	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法 (既存治療で効果不十分な場合に限り)	通常、成人にはヘドリスズマブ (遺伝子組換え) として1回108mgを2週間隔で皮下注射する。	生物、 劇、処方	R5.3.27	新投与経路
			エンタイビオ皮下注 108mgシリンジ	108mg0.68mL1筒	69,888	1キット							
5	239	注射薬	オンボー点滴静注300mg	300mg15mL1瓶	192,332	15mL×1バイアル	日本イーライ リリー	ミリキズマブ (遺伝子組換え)	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法 (既存治療で効果不十分な場合に限り)	通常、成人にはミリキズマブ (遺伝子組換え) として、1回300mgを4週間隔で3回 (初回、4週、8週) 点滴静注する。なお、12週時に効果が不十分な場合はさらに1回300mgを4週間隔で3回 (12週、16週、20週) 投与することができる。 また、ミリキズマブ (遺伝子組換え) 皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には、1回300mgを4週間隔で3回点滴静注することができる。	生物、 劇、処方	R5.3.27	新有効成分
6	239	注射薬	オンボー皮下注100mg オートインジェクター	100mg1mL1キッ ト	126,798	1mL×2オートインジェク ター	日本イーライ リリー	ミリキズマブ (遺伝子組換え)	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法 (既存治療で効果不十分な場合に限り)	ミリキズマブ (遺伝子組換え) 点滴静注製剤による導入療法終了4週後から、通常、成人にはミリキズマブ (遺伝子組換え) として1回200mgを4週間隔で皮下投与する。	生物、 劇、処方	R5.3.27	新有効成分
			オンボー皮下注100mgシ リンジ	100mg1mL1筒	126,798	1mL×2シリンジ							
7	399	注射薬	バリンジック皮下注2.5mg	2.5mg0.5mL1筒	61,606	プレフィルドシリンジ 1本 プレフィルドシリンジ 2.5mg	BioMarin Pharmaceutic al Japan	ヘグバリアー ゼ (遺伝子組 換え)	フェニルケトン尿症	通常、成人にはヘグバリアーゼ (遺伝子組換え) として1日1回20mgを維持用量とし、皮下投与する。ただし、週1回2.5mgを開始用量として、以下の漸増法に従い、段階的に増量する。1日1回20mgを一定期間投与しても効果が不十分な場合は、40mg又は60mgに段階的に増量できるが、最大用量は60mgである。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。 1日1回20mgまでの漸増法	劇、処方	R5.3.27	新有効成分
			バリンジック皮下注10mg	10mg0.5mL1筒	64,155	プレフィルドシリンジ 1本 プレフィルドシリンジ10mg							
			バリンジック皮下注20mg	20mg1mL1筒	65,468	プレフィルドシリンジ 1本 プレフィルドシリンジ20mg							

用量・投与頻度	投与期間
2.5mgを週1回投与	4週間以上
2.5mgを週2回投与	1週間以上
10mgを週1回投与	1週間以上
10mgを週2回投与	1週間以上
10mgを週4回投与	1週間以上
10mgを1日1回投与	1週間以上
20mgを1日1回投与	-

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
8	429	注射薬	ベスレミ皮下注250μgシリンジ	250μg0.5mL1筒	297,259	シリンジ1本、30G注射針1本	ファーマエツセンシアジャパン	ロベグインターフェロンアルファ2b(遺伝子組換え)	真性多血症(既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限る)	通常、成人には、ロベグインターフェロンアルファ-2b(遺伝子組換え)(インターフェロンアルファ-2b(遺伝子組換え)として)1回100μg(他の細胞減少療法薬を投与中の場合は50μg)を開始用量とし、2週に1回皮下投与する。患者の状態により適宜増減するが、増量は50μgずつ行い、1回500μgを超えないこと。	劇、処方	R5.3.27	新有効成分
			ベスレミ皮下注500μgシリンジ	500μg1mL1筒	565,154	シリンジ1本、30G注射針1本							
9	639	注射薬	アトガム点滴静注液 250mg	250mg5mL1管	75,467	5アンプル	ファイザー	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	中等症以上の再生不良性貧血	通常、1日1回体重1kgあたり抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリンとして40mgを緩徐に点滴静注する。投与期間は4日間とする。	生物、劇、処方	R5.3.27	新有効成分
10	125	外用薬	アポハイドローション 20%	20%1g	545.80	4.5mL(プラスチック容器)×20本	久光製薬	オキシブチニン塩酸塩	原発性手掌多汗症	1日1回、就寝前に適量を両手掌全体に塗布する。	処方	R5.3.27	新効能 新剤形
11	132	外用薬	コムレクス耳科用液1.5%	1.5%5mL1瓶	1,584.50	5mL×5 [プラスチック瓶]	セオリア ファーマ	レボフロキサシン水和物	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属 <適応症> 外耳炎、中耳炎	通常、1回6~10滴を1日2回点耳する。点耳後は約10分間の耳浴を行う。なお、症状により適宜回数を増減する。	処方	R5.3.27	新投与経路
12	269	外用薬	ネキソブリッド外用ゲル5g	5g1瓶(混合用ゲル付)	162,995.90	5g×1瓶(混合用ゲル1瓶添付)	科研製薬	バイナツプル茎搾汁精製物	深達性Ⅱ度又はⅢ度熱傷における壊死組織の除去	混合用ゲルの容器に凍結乾燥品全量を加えて混合し、本剤を調製する。本剤を熱傷創に適量塗布し、4時間後に除去する。	処方	R4.12.23	新有効成分

・薬価については官報をご確認下さい。

・承認段階の情報につきましては、適宜、日本薬剤師会雑誌の医薬品情報に掲載しておりますのでご参照下さい。

・承認に関する情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ」の新薬の承認に関する情報もご参照下さい。

・医薬品薬価マスターに関する情報は「診療報酬情報提供サービス」をご参照下さい。

・医薬品コードに関する情報は「薬価基準収載医薬品コード表(MEDIS-DC提供)」をご参照下さい。